

金原明善 きんげんめいぜん 實業家。大保二年六月七日遠江國長上郡安原村生乳、大正十一年一月十四日歿（八三二—一九三三）。幼名彌一郎、久平。明治七年大龍川堤防會社、翌年治河協力社を設立し、大龍川の治水治山に貢献。のち出獄人保護に當るなど社會事業に力盡す。

文獻に、碧瑠璃園著『金原明善翁』（明治四十二年十一月）二十四日發刊・興風書院「興風叢書」）、水野定治著『天龍翁金原明善』（大正五年九月十日積文館）、鈴木信一『金原明善翁の滅私奉公』（昭和十七年十月）二十日静岡・天龍木材株式會社・天龍製鋸株式會社（教養部）、永野大七郎著『黎明の立ち人—金原明善傳』（昭和十八年二月十日啓徳社）、御手洗清著『^上偉人金原明善傳』（昭和十九年一月十日金鈴社）、永野大七郎著『大地の父（金原明善傳記小説）』（昭和十九年二月）二十日東海書房）、野口亮編『明善・龍雄・苗子』（昭和二十五年七月）二十五日（隔社）、水野定治著『岐阜県と金原明善翁』（昭和二十八年十一月）二十日序、根尾村森林組合）、宮崎安右衛門著『金原明善』（昭和二十一年九月）二十日大法廳閣）、和田清著『金原明善』（昭和二十四年五月）二十八日、再刊・二十六年七月二十五日日本書房「現代傳記全集」）等。

